日本美術史入門b

—日本の美術に親しむ—

（1年　後期　2単位）　　仲　町　啓　子

授業のテーマ・目標

絵画史を中心に室町時代末より江戸時代終りまでの日本美術の歴史を概観する。代表的な作品を取り上げ、基礎的な知識を習得するとともに、作品が表現するものについて考え、その魅力を味わい、鑑賞する力を養う。文化史・社会史背景も踏まえながら、ひとつの作品が歴史的にどのような意味を有しているか、あるいは有してきたかについて考える。なお、工芸作品（特にその意匠）も適宜取り上げる。

授業の内容

下記のような順に行う。

1．桃山時代—黄金の襖絵
2．桃山後期の絵画—長谷川等伯・海北友松ほか
3．桃山時代の風俗画
4．桃山から江戸時代の工芸など
5．17世紀の京都の文化と美術—俵屋宗達ほか
6．桃山から江戸時代へⅠ—狩野探幽・岩佐又兵衛など
7．桃山から江戸時代へⅡ—風俗画の変容と浮世絵の誕生
8．明清の文人画の紹介と南画の隆盛—池大雅ほか
9．18世紀京都の新たな展開—伊藤若沖・曾我蕭白・与謝蕪村
10．18世紀京都・江戸の多彩な絵師たち—円山応挙・長沢芦雪・秋田蘭画・司馬江漢
11．浮世絵の盛期（錦絵の展開）—春信・春章・清長・歌麿・写楽
12．19世紀前半の江戸と京都で活躍した南画家たち—渡辺崋山・田能村竹田ほか
13．幕末期の琳派（酒井抱一など）と浮世絵（北斎・広重・国芳など）
14．試験
15．まとめ

準備学習

辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館　2009年）のpp.96-141を読む。

テキスト・教材

授業時に基本的な作者名・作品名・用語等を書いたプリントを配布する。そのうち、特に重要な項目には＊マークがついているので、最低限それらに関しては正確な漢字で書けるように努めること。テキストは特に指定しないので、配布されたプリントをもとに、授業時の説明を各自ノートに書き留める必要がある。授業はすべてデジタル画像を使って行なう。＊マークがついた重要作品の画像は、Web上でも公開しているので、家のパソコン等からもアクセスすることができる。上記のプリントとデジタル画像が、実質上の教科書となる。

成績評価の方法・基準

学期末の試験（70%）、提出課題（20%）、授業態度（10%）。

参　考　書

『日本美術館』（小学館　1997年）